

親子関係検査の作製

研究第8部 牛島 義友

親子関係、特に親の育児態度と子どもの性格形成との関係については、臨床的或いは実態調査的に多くの研究がなされているが、その結果は必ずしも一致してはいない。親の育児態度の調査法としても PARI の尺度を始めとしていくつかのものが実用に供されている。わが国においては品川氏の親子関係診断検査だけであるので、本邦に使用できる新しい育児態度の検査を作ることとした。このために先ず PARI や品川氏の検査の因子分析を行なった。次ぎに因子分析の結果から考えられる主要な因子に基づいて新たな親子関係調査を作製した。

次ぎにこの親の育児態度と子どもの性格との関係をみるためにブリッジスの幼児性格検査を、わが国の子どものために標準化しなおしてそれとの関係を見ることとした。なお1.の因子分析に関しては九州大学の関文恭氏の助力を受けたし、親子関係調査票の標準化にあたっては青山学院大学の高野良子氏、子どもの性格との関係については石川由紀子氏に専らお願いした。

1. 親の態度の因子分析

親の育児態度に関してはラトケやサイモンズらの研究以来さまざまな態度やその類型が述べられている。しかしその言葉や考え方も相違するので因子分析的に整理する必要があると考えられる。代表的な親の育児態度検査としてセファーらの PARI 尺度があるが、これについてノールトン (Norton) や (Nichols) ニュールスなどの因子分析があるので我々も同尺度の因子分析を試みた。

PARI の尺度は何回か改訂されているが、ここで取り上げた尺度は4形式で115の小問から成っているが、それを分類すると第1表のような23項目になる。各小問については A大いに賛成、aやや賛成、dやや不賛成、D大いに不賛成に評価するようになっている。われわれは品川氏の訳したものをを用いて幼稚園児の母親100名について自分の育児態度を評価してもらった。その結果を

因子分析した。なおセントロイド法によって分析し、負荷量の0.3 (30) 以下のものは表から省略した。

なおノールトンは母親について調べたものであり、ニコルスは父親について調べたもので分析している。その結果は表でみるように三者の結果は非常に類似している。ノールトンは第1因子 authoritarian, suppressive, punitive and restricting types of attitude

第2因子 hostility toward children and husband and rejection of the maternal role

第3因子 democratic attitudes toward child rearing といっている。

ニコルスも第1因子は権威的支配、第2因子は結婚生活のコンフリクト、第3因子は民主的態度と名づけている。

田研式親子関係診断検査の因子分析

わが国においては品川氏の作った田研式親子関係診断検査が使われているのでこれについても因子分析を行なってみた。これは二つの幼稚園児100名と愛育養護学校児45名の母親に記入してもらったものについて因子分析を行なった。これは、1. 消極的拒否 2. 積極的拒否 3. 厳格 4. 期待 5. 干渉 6. 不安 7. 溺愛 8. 盲従 9. 矛盾 10. 不一致の10の項目から成り立っているが、分析の結果では第1因子は、1. 消極的拒否、9. 矛盾及び、2. 積極的拒否に關したもので拒否とコンフリクトの性質のものといえよう。第2因子は3. 厳格と 5. 干渉及び 2. 積極的拒否に關係が多いもので支配の因子といえよう。第3因子は、6. 不安 7. 溺愛 8. 盲従に關係が深く過保護因子ともいえる。

この二つの尺度の因子構造は必ずしも類似していないが、支配的因子とコンフリクトに關した因子は共通に現われており、従ってこれは基本的な態度であるといえよう。

第1表 因子分析表

Test	Factor	Factors of PARI I			II			III		
		Norton	Nichols	Ushiji- ma	No	Ni	Us	No	Ni	Us
Encouraging verbalization										
Fostering dependency		71	71	73				55	65	49
Seclusion of mother		76	74	51						
Breaking will		77	63	59						
Martydrom		77		54						
Fear of harming baby		66								
Marital conflict										45
Strictness						53				
Irritability										
Excluding outside influence					69	72				
Deification		80	64	64						
Suppression of aggression		74	68	82						
Rejection home role		65	66	67						
Equalitarianism					62		52			
Approval of activity		70						60	61	53
Avoidance of communication		70								
Inconsideration of husband		63	51	43		64 (wife)	50			
Suppression of sex		78	74	72						
Ascendance of mother		72		74						
Intrusiveness		73		55						
Comradeship								58	59	47
Accelation of development		74		54						
Dependency of mother		60								
Change of orientation			71							
Autonomy of child									55	
		Authoritarian control			Marital conflict			Democratic attitude		

2. 新しい育児態度尺度の作成
(親子関係調査)

以上の因子分析に基づいて新しい育児態度の尺度の作成を試みた。ここで取り上げたものは支配的因子と愛情因子及び不安因子である。支配因子は権威主義的支配的なものであるが PARI の厳格性、神格化、攻撃性の抑圧、言語表現の奨励、対等、友情的共同参加等の項目から問題を作り支配と自律 (control と autonomy) 軸と名付ける。

第2軸としては前の因子分析には必ずしも上位には出なかったけれども従来の考えで重要なものとして強調されている親の愛情の軸を取り上げた。ここではシアーズの研究なども考慮し親子関係が暖かいものと冷たいものとし、親子が愛情的に結びついたものと理性的態度で向

っているもの、或いは家庭中心の態度などを取り上げた。この軸を愛情 (暖かさと冷たさ) (warm-cold) の軸とする。

第3軸としては不安の軸とする。これは結婚生活に関したコンフリクト、夫や姑に対する不満とか家庭の仕事に対する拒否的な態度などを含めることとし、不安 (anxiety) の軸と名づける。

なお予備検査においては I (CA) 20問、II (WC) 17問、III (Ax) 21問を作り、その他拒否的態度 (rj) に関する5問、過保護 (op) に関する5問、過剰要求 (od) 5問、溺愛 (in) 5問の問題を用意した。幼稚園児91名の母親について予備検査を行なって三つの部門別に点数を出し、その上位群、下位群に分けて項目分析を行なった。その結果弁別力の弱いものを捨てて付録の表にあるような I (CA) 18問、II (WC) 16問、III

牛島：親子関係検査の作製

第2表 田研式親子関係診断検査因子分析

	I		II		III		h ²	
	幼稚園	養護学校	幼稚園	養護学校	幼稚園	養護学校	幼稚園	養護学校
1. 消極的拒否	597	720	160	315	-030	0	513	627
2. 積極的拒否	455	415	573	665	112	-17	650	667
3. 厳格	166	105	635	470	262	386	510	566
4. 期待	132	525	630	065	-010	445	530	486
5. 干渉	-185	-090	515	660	328	520	643	726
6. 不安	0	150	343	380	520	805	600	915
7. 溺愛	-080	-040	0	070	643	773	531	652
8. 盲従	0	436	0	-230	685	534	580	537
9. 矛盾	427	667	205	427	392	0	462	628
10. 不一致	367	060	115	480	-090	050	389	381
・負荷量の高い検査		1		3		6		
		9		5		7		
		(2)		(2)		8		
因子の性質	reject conflict		control		over protect			

第3表

	3歳			4歳			5歳			6歳			合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
人数	17	17	34	73	78	151	96	56	152	33	31	64	219	182	401	
支配	平均	11.29	13.30	12.30	13.64	13.72	13.68	13.19	13.11	13.16	12.73	13.35	13.03	13.12	13.43	13.26
	標準偏差	4.00	2.73	3.57	3.46	3.74	3.60	3.77	3.21	3.57	3.51	3.30	3.42	3.70	3.44	3.58
愛情	平均	12.94	14.24	13.59	12.93	13.90	13.43	12.88	13.57	13.13	13.70	13.61	13.66	13.02	13.78	13.34
	標準偏差	2.76	3.28	3.10	3.73	3.10	3.45	3.26	3.06	3.21	3.20	3.49	3.34	3.39	3.18	3.31
不安	平均	11.06	12.32	11.94	10.96	9.69	10.30	10.77	10.89	10.82	10.30	9.87	10.09	10.79	10.38	10.60
	標準偏差	4.12	6.90	5.30	4.73	5.28	5.06	4.96	4.93	4.94	5.02	5.55	5.28	4.83	5.47	5.10

(A×) 18問の尺度とした。なおこれについては「はい」「どちらでもない(時々)」「いいえ」のいずれかに判断してもらおうがIのCAについては支配的な反応のあるものには2点、どちらでもないは1点、いいえは0点と配点して採点する。即ち1番から9番までは「はい」と答えたものに2点、10番から18番までは「いいえ」と答えたものに2点を与える。最高点は36点となり点が高いほど支配的であることを意味する。

II (WC) についても同様であって愛情的な方に点を与える。即ち1、2、3、6、9、13、14については、「はい」に2点、4、5、7、8、10、11、12、15、16問については「いいえ」に2点を与える。最高点32点であり点数が高いほど愛情的である。

III (A×) は不安な方に点をつける。即ち1番から5番まで7、9及び12から18番までは「はい」に2点を与える、6、8、10、11は「いいえ」に2点を与える。最高点34点となり点が高いほど不安を示す。

〔標準化〕

本尺度を1967年にのびる会幼稚園(3歳から6歳まで)401名の園児の母親に自分の育児態度を評定してもらった。その結果は第3表のようになり支配自律(CA)の点では全体で平均13.26点であり、幼児の年齢に応じた変化はごく僅かであり、また男児女児の性別も殆んどない。第IIの暖かさ(WC)の点では全体が13.34点で子どもの年齢による差も一定の傾向が見出されない。性別で見るといく分女児の方に点が高くなってい

第4表

	母親			父親		
	男	女	計	男	女	計
人数	219	182	401	90	77	167
支配	平均 13.12	13.43	13.26	13.98	14.57	14.25
	標準偏差 3.70	3.44	3.58	3.74	4.04	3.88
愛情	平均 13.02	13.78	13.34	14.53	14.05	14.31
	標準偏差 3.39	3.18	3.31	3.46	3.12	3.32
不安	平均 10.79	10.38	10.60	12.38	10.81	11.65
	標準偏差 4.83	5.47	5.10	4.94	4.92	5.00

る。不安(Ax)の点では10.60点である。これは3歳児の親にはいく分不安が高くなっている。従って全体として本尺度は子どもの年齢に拘らず少なくとも幼稚園児の

親については一つの規準で判断していってよいと考えられる。なお167名の父親もこの記入に参加してくれたが父親と母親との比較の意味でその結果を眺めてみるとCAもWC、Axも皆父親の方が1点ほど点が高くなっている。また男児女児に対する態度では支配的態度は女児の方に強く、愛情と不安は男児の方に強くなっている。このように父親の方にそれぞれの点数が高くなっているのは一般的傾向なのか或いはそれともこのような仕事に関心を持ち協力してくれるような父親のせいかもしれない。母親は園児543名の中の401名の母親が参加しているが父親の場合は167名が記入してくれたわけであるので育児に熱心な父親の結果とみる必要もあろう。

なおこの尺度を精薄児をもった母親について調査を行ったが、その結果は第5表のようで精薄の場合は普通児に比べて支配的態度が遙かに少なくなっており、また

第5表

	正 常 児			精 薄 児			
	男	女	計	男	女	計	
人数	219	182	401	24	21	45	
支配	平均 13.12	13.43	13.26	11.92	11.24	11.60	t = 5.478
	標準偏差 3.70	3.44	3.58	4.00	3.52	3.78	P < .001
愛情	平均 13.02	13.78	13.34	15.75	15.14	15.46	t = 7.162
	標準偏差 3.39	3.18	3.31	3.70	3.48	3.62	P < .001
不安	平均 10.79	10.38	10.60	11.75	12.48	12.08	t = 4.044
	標準偏差 4.83	5.47	5.10	4.64	6.26	5.46	P < .001
拒否	平均 1.66	1.73	1.69	2.21	3.92	2.87	t = 5.413
	標準偏差 1.48	1.42	1.46	1.41	2.10	2.03	P < .01
過保護	平均 5.87	5.65	5.77	7.21	6.86	7.04	t = 5.826
	標準偏差 1.89	1.90	1.90	1.89	1.98	1.95	P .01
過剰要求	平均 4.95	5.23	5.07	6.00	5.43	5.73	t = 2.857
	標準偏差 2.24	2.00	2.15	2.07	2.16	2.16	.05 > P > .02
溺愛	平均 2.51	2.65	2.57	3.21	3.67	3.42	t = 3.728
	標準偏差 1.49	1.72	1.60	2.08	2.21	2.16	.02 > P > .01

愛情的態度が非常に高く、不安もまた高い。精薄幼児に対しては親たちは強い不安を持ち何とかしてやりたいとの愛情が非常に強く現われ、しつけたり教育するというよりも過保護になるという傾向がこの点数にも表われている。なお拒否(rj)、過保護(op)、過剰要求(od)、溺愛(in)の点で採点した結果も付記しておいたがいずれも正常児の親よりも点数が高くなってい

る。これらの傾向は当然期待されるものではあるが、本尺度の有効性を反映しているものとも解釈できる。

以上のうち、母親の点数から本尺度の標準化を行ないその結果を5段階に評価できるようにした。それは付録の問題用紙の後に付記した。

〔三軸の相関〕

男子(5歳100名)、女子(5,6歳100名)の母親につい

第6表
三軸の相関

男子（5歳）100名	
CA・WC	-0.199
CA・Ax	-0.0224
WC・Ax	-0.0579
女子（5、6歳）100名	
CA・WC	-0.189
CA・Ax	0.05
WC・Ax	-0.088

て三つの軸の点数の相関を出したが第6表のように全然相関がなく、独立性をもっていることを示している。従ってこのような検査は一つの軸からだけでなく三つの軸から総合的な判断をすることが必要である。

〔三軸と四態度との相関〕

この三つの育児態度の軸と別に調べた拒否、過保護、過剰要求、溺愛の四つの態度との間の相関を男女児200名の母親について調べてみた。その結果は予想に反してCAやWCの軸はほとんど相関を示していなかった。ただAxが拒否とかなり高い相関をみせていた。（第7表）

第7表
三軸と四態度の相関 人数200名

	rj	op	od	in
CA	-0.008	0.027	0.0186	0.031
WC	-0.098	0.022	0.089	0.043
Ax	0.382	0.067	0.047	0.043

〔育児態度と生活条件との関係〕

この親子関係調査の点数と社会的地位や年齢との関係を調べてみた。親の社会経済的地位を四段階に分けてはみたが1と4の階層の数は少数あるので信頼性も低い。その結果は第8表のようになっており、一定の傾向を見出すことは困難であった。出産年齢としては20歳から5年きざみで分けてみたがやはり一定の傾向をみることは困難であった。ただ高年齢の場合不安がやや少なくなっているようである。愛情と支配的傾向は若い母親と高年齢の母親に高くなってはいる。

子どもの出生順位で分けてみると愛情的態度は長子と一人子に強くなり、不安は中間子に高く出ている。（第8表）

第8表

	CA	WC	Ax	人数
社会的地位				
I	13.64	11.54	9.61	28
II	13.40	13.87	9.53	250
III	13.10	13.56	12.46	114
IV	12.00	12.74	10.80	13
出産年齢				
20歳～24歳	13.61	13.19	10.95	62
25～29	12.00	12.10	10.10	112
30～34	12.13	12.14	11.13	110
35～39	12.82	13.39	8.34	19
同胞順位				
長子	13.24	13.49	9.73	134
中間子	13.40	11.44	11.38	31
末子	12.87	11.82	10.92	166
一人子	13.31	13.59	9.34	78

3. 親の育児態度と子どもの性格との関係

前述の親子関係による親の育児態度は子どもの性質や性格形成にどのような関係をもつてであろうか。このためには子どもの方の性格調査もまた必要となってくる。幼児の性格検査としては適当なものを得にくいし、また方法についても疑問があるが一応古くブリッジスの用いた検査をわが国の子どもにも適用できるように標準化してみた。これは幼児の性格を社会的方面、情緒的方面、人格的方面の三方面から検査するようになっている。社会的方面は16の小問から成るが各小問は付録の検査用紙のように3種の選択をするようになっている。例えば「他人と遊びますか」、「一人で遊びますか」、或いは「そのいずれともいえない」場合というふうに分けられる。なお配点は望ましいと思われる性格に3点、望ましくないと思われる性格に1点、その中間は2点とするようになっている。人格的方面では12問、情緒的方面は15問から成っている。なお左側が望ましい性質になり、右側が望ましくない性質である。ただし11問のみは左側と真中に○印をつけた場合に3点、右側が1点となる。

この検査をのびる会幼稚園児543名について母親に自分の子どもについて記入してもらった。なお前の親子関係調査と同じ時期に行なったものである。この検査の結果は第8表のようになり、年齢別、男女別の差が意外に小さかった。合計点のところでも3歳児98.2、4歳児97.9、5歳児100.1、6歳児99.8であり、また男女差も極めて小さい。

第9表
平均値 (M)

項目		人数	社会	人格	情緒	合計
性別						
3歳児	男	33	36.7	29.2	33.2	98.7
	女	22	36.7	29.5	31.5	97.5
	計	55	36.7	29.3	32.5	98.2
4歳児	男	100	38.0	27.8	31.4	97.3
	女	87	37.5	28.8	32.4	98.6
	計	187	37.7	28.3	31.9	97.9
5歳児	男	126	37.5	28.5	33.0	99.3
	女	93	38.8	29.6	33.2	101.3
	計	219	38.0	29.0	33.1	100.1
6歳児	男	48	38.5	28.5	32.0	98.0
	女	34	39.7	28.5	32.9	102.3
	計	82	39.2	28.5	32.4	99.8
合計	男	307	36.7	27.4	33.4	98.3
	女	236	38.2	28.7	32.6	100.3
	計	543	37.4	28.0	33.1	99.2

標準偏差値 (SD)

項目		人数	社会	人格	情緒	合計
性別						
3歳児	男	33	4.3	3.4	4.0	8.7
	女	22	4.4	3.0	4.3	7.7
	計	55	4.3	3.2	4.1	8.2
4歳児	男	100	3.8	4.3	4.7	10.2
	女	87	4.2	3.8	4.8	10.0
	計	187	4.0	4.0	4.7	10.1
5歳児	男	126	3.8	3.7	4.5	9.3
	女	93	4.7	3.6	5.0	11.2
	計	219	4.2	3.6	4.7	10.2
6歳児	男	48	4.2	3.1	5.0	9.0
	女	34	4.2	3.8	5.4	9.6
	計	82	4.2	3.4	5.2	9.3
合計	男	307	4.7	3.8	5.0	9.6
	女	236	4.4	3.7	5.0	10.1
	計	543	5.2	4.2	5.4	10.1

故に本検査の標準は3歳から6歳までの幼児については一つの規準で表わすこととした。5段階の評価は付録に示したようである。

〔親の育児態度との相関〕

次にこの幼児性格検査と先の親子関係調査との相関を調べた。このためには4歳児5歳児からそれぞれ男児

50名、女児50名、合計200名をランダムに選び出してその母親の育児態度との相関をとった。その結果は第10表の如く支配(CA)愛情(WC)の点では子どもの性質と全然相関が出なかった。不安(Ax)の軸については全体として.306の相関が表われており、即ち不安が高いほど望ましい性格点が低くなっている。社会、人格、情緒の三方面別にみると情緒面との関係が一番強くなっている。なおついでに親の拒否(rj)、過保護(op)、過剰要求(od)、溺愛(in)との関係を付記しておいたが拒否と過保護は子どもの性質と相関がみられるが、過剰要求と溺愛とは無関係であった。

以上の結果により一般的に親の育児態度と子どもの性質との関係は高くはなく権威的支配的に臨むか、自律を尊重するか、愛情的であるか理性的であるかということとは極端に傾かない限り子どもの性質に影響することはないといわねばならない。しかし親自身が育児に対して、或いは結婚生活に対して不安感が強く母親の役割に対して拒否的な態度であれば子どもに対しても拒否的に臨むとか、さらには不安のあまり過保護になったりする場合には子どもの性質と.3程度に相関があり子どもに影響してくるといえる。

第10表 相 関

親	子			
	社会的方面	人格的方面	情緒的方面	合計
CA	-0.088	0.004	0.097	0.018
WC	0.064	0.051	-0.053	-0.054
Ax	-0.220	-0.257	-0.300	-0.306
rj	-0.235	-0.211	-0.215	-0.335
op	-0.252	-0.259	-0.278	-0.239
od	-0.026	-0.043	-0.043	-0.052
in	-0.079	-0.011	-0.193	-0.110

まとめ

親の育児態度の因子分析の結果権威的支配、結婚生活のコンフリクト、民主的態度、過保護等が主要な因子として見出されたが、このうち支配と自律、愛情(暖かさ)と冷たさ)不安の三因子を基にした親子関係調査票を作製した。

正常児401名の母親について標準化した子どもの年齢(3歳~6歳)或いは男児であるか女児であるかということと母親の態度との間にはほとんど差がなく、従って共通の一つの基準を定めた。

この三軸は相互相関がなく独立性をもっている。精薄児をもった親などの場合は正常児とかなり相違し愛情や

牛島：親子関係検査の作製

不安は高く出ている。

子どもの性格としてはブリッジスの尺度を543名の幼児について調べたが3歳児と6歳児との間に発達的な変化はみられなかった。また男女児についても一定の有意差はみられなかった。従って幼児全体に適用できる基準点を作製した。

次に前の親の育児態度と幼児の性格との相関をみる

と支配と愛情の軸は子どもの性質の社会的、人格的、情緒的の何れの点とも相関がみられなかった。不安の軸はそれぞれ、3程度の相関があり不安が高いほど子どもの性質に望ましくない影響を与えている。

なお親の態度としてその他拒否、過保護、過剰要求、溺愛の性質もとってみたが拒否と過保護は関係を示すが過剰要求と溺愛は関係を示さなかった。

<附録 I >

親子関係調査

(牛島發友案)

記入者				(父、母)	
子どもの名前	[]			男、女	年 月 日 生 歳
父	年齢	歳(実・養・継)		職 業	()
母	年齢	歳(実・養・継)		職 業	()
兄	弟	1.	(男・女)	歳	
		2.	(男・女)	歳	
		3.	(男・女)	歳	
		4.	(男・女)	歳	

	I (CA)	II (WC)	III (Ax)
粗点			
段階点			

子どもさんに対する育児態度をできるだけ、正直に答えてください。

全部の子どもにではなく特定の子ども(上記のお子さま)に対する態度をかいてください。

質問に対しては「はい」(しばしば)、「どちらでもない」(時々)、「いいえ」(ほとんどない)のいずれかに○印をつけて答えてください。

I (CA)

- | | はい
(しばしば) | どちらでもない
(時々) | いいえ
(ほとんどない) |
|--|--------------|-----------------|-----------------|
| 1. 強い性格になるように厳しくしつけていますか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. 善い社会人になるように、色々規則や習慣を身につけさせようと努力しますか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 厳しくしつけられている子どもの方が実際は幸福なのだと思いますか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 両親に対する無条件の忠誠(親孝行)をあなたは子供に教えていますか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. 他の誰よりも両親を尊敬するよう子供に教えこんでいますか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. どんなことがあってもけんかは避けるように子供に教えていますか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 7. 問題がおこったとき、けんかするよりも、両親や教師のところへまずやってくるように子供をしつけていますか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 8. 子供が他の子供をたたくことについては、どんな弁解もさせませんか。 | はい | どちらでもない | いいえ |

はい (しばしば) どちらでもない (時々) いいえ (ほとんどない)

9. チャンバラやレスリングは、攻撃性をつけたり怪我をひき起こすから子供たちにやらせないようにしていますか。
10. 家のきまりを子供が不合理だと感じた時にはいつでも両親にそれを告げられるようにしてありますか。
11. 子供も自己の見解をもつ権利があると思うので、それを表現することを許していますか。
12. 家族で物事をきめるときに、子供の考えを大いに考慮していますか。
13. 子供が何か困ったことをしてかした時、これを両親に告げても罰せられないということをお子に知らせていますか。
14. あなたは、その行いによって子供の尊敬をうけるように努めていますか。
15. 不都合にならない範囲において親は子供を対等に扱っていますか。
16. 親が子供の冗談を聞いて笑ったり、子供にも冗談を言ったりしますか。
17. 子供のおこづかいのつかいみちについては子供に完全にまかせていますか。
18. たとえばできばえがわるかったり、むだがあっても、子どもがひとりで行ったことは認めてやりますか。

- | | | |
|----|---------|-----|
| はい | どちらでもない | いいえ |

II (WC)

1. 子供に対する愛情や行動を人前でも平気であらわしますか。
2. 子どもと遊ぶために、できるだけ多くの時間をさきますか。
3. 子どもが頼ってきたら、いつでも快く、それに答えますか。
4. 食事の行儀が悪い時など、すぐ叱りますか。
5. 幼児にしつける時には、例外を許さずきびしく実行していますか。
6. 子どもたちといっしょに歌をうたったり、ゲームをして遊ぶことが多いですか。
7. お客さんがあった時などには、子どものことはつかまわないでおきますか。
8. 子どもが困っている時でも、すぐ助けずに自分でやるようにしていますか。
9. 子どもは仲間や学校で教育され、きたえられているのだから、家庭ではできるだけ、やさしく、自由にさせようとしていますか。
10. 慈母よりも賢母になろうと努力していますか。
11. 子どもの成長に応じ、保護と自立の態度をはっきり切りかえようとしていますか。
12. 子どもが大人の生活や仕事の邪魔をする時には厳しく叱って、大人と子どもの生活のけじめを教えようとしていますか。
13. 子どもを家において外出することは殆んどありませんか。
14. おやつの時など、子どもがほしがれば親の分もすぐ分けてやりますか。
15. 小さい時は甘やかす、青年期になって厳しく要求するよりも、子どもの時に厳しく躾け、青年期になったら自由にさせようと考えていますか。
16. 育児のあいまにも、自分の生活や仕事をもち続けたいと努力していますか。

- | | | |
|----|---------|-----|
| はい | どちらでもない | いいえ |

III (A x)

1. 夫婦の間で口論することが多いですか。

- | | | |
|----|---------|-----|
| はい | どちらでもない | いいえ |
|----|---------|-----|

牛島：親子関係検査の作製

	はい (しばしば)	どちらでもない (時々)	いいえ (ほとんどない)
2. あなたは自分の立場を確保するために、時には夫の仕事に干渉しを入れますか。	はい	どちらでもない	いいえ
3. 夫婦の間に、時には意見の食い違いが起って、いらいらしますか。	はい	どちらでもない	いいえ
4. 夫婦の間で、時にはおだやかな論議では解決しないことがありますか。	はい	どちらでもない	いいえ
5. 子どもがわがままであつかましい時にあなたはいつも腹を立てますか。	はい	どちらでもない	いいえ
6. 子どもに対して一日中やさしく上気嫌でいられますか。	はい	どちらでもない	いいえ
7. 子どもを育てることは神経の疲れる仕事ですか。	はい	どちらでもない	いいえ
8. 夫は子どもを扱うことに関してあなたに親切ですか。	はい	どちらでもない	いいえ
9. あなたの夫はなにかと利己的ですか。	はい	どちらでもない	いいえ
10. あなたの夫は父としての役割をうまく果していますか。	はい	どちらでもない	いいえ
11. 夫は、あなたにも人生の楽しみが必要だということを気付いていますか。	はい	どちらでもない	いいえ
12. あなたは、その時の気分によってしつけ方が変わりますか。	はい	どちらでもない	いいえ
13. ある時は子どもを放っておき、ある時はうるさがるほど世話をやきますか。	はい	どちらでもない	いいえ
14. 子どもの教育やしつけについて両親の方法や意見が合わないことがありますか。	はい	どちらでもない	いいえ
15. 姑と同居しているので、たえず苦労して悩みますか。	はい	どちらでもない	いいえ
16. 家事の雑事から逃れられないと感じて悩みますか。	はい	どちらでもない	いいえ
17. 若いうちにしておきたいことがたくさんあるために、あなたは抑えつけられているように感じますか。	はい	どちらでもない	いいえ
18. 子どもが期待通りの成績をとらなかったり、言うことをきかないのでいらいらしていますか。	はい	どちらでもない	いいえ

採点法

この親子関係調査は親の育児態度を因子分析の結果三つの軸で表わすことになっている。第1軸は支配と自律 (control-autonomy) 第2軸は愛情 (暖かさと冷たさ) (warm-cold)、第3軸は不安 (Anxiety) である。

各小問の点数はIでは支配的な反応に2点、どちらでもない1点、とする。従って表に示されたように1番から9番までははいと答えたものに2点、10番から18番まではいいえを答えたものを2点とし、どちらでもないは1点とする。支配に反対の反応に対しては点を与えない。

第II軸では愛情的な反応に点を与える。従って表の中に示された番号によって、はい或いはいいえに2点を与える。どちらでもないは1点。

第III軸は不安的の反応に対して点を与える。表に示されたように問題別に点を与える。次ぎに各軸別に合計点を出し、それを表に基づいて+2から-2までの5段階に評価する。

		支配・自律 CA	愛情 (暖かさと冷たさ) WC	不安 Ax
標準 段階	+ 2	18→	18→	18→
	+ 1	15 — 17	15 — 17	13 — 17
	0	11 — 14	11 — 14	8 — 12
	- 1	8 — 10	8 — 10	3 — 7
	- 2	← 7	← 7	← 2
採 点 法	はい (2点)	1 — 9	1, 2, 3, 6, 9, 13, 14	1—5, 7, 9, 12—18
	いいえ (2点)	10 — 18	4, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 15, 16	6, 8, 10, 11
どちらでもないは 1点				

<附録 II>

幼 児 性 格 検 査

	社 会	人 格	情 緒	合 計
素 点				
段 階				

子どもの氏名 (男・女) 年齢 歳 月 所属 幼稚園・その他
 評 定 者 (関係 親・教師・その他)

お子さんの性格や行動を評定して下さい。問題は同じ性質が対照的に並べられています。右欄のようであれば、その右端の「わく」の中に、左欄のようであれば、左端の「わく」の中に、もし何れともいえない場合は中央のわくの中に、○印をつけて下さい。

社会的方面

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 他人と遊びますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 1. 一人で遊びますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 2. 他人にかまいませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 2. 他人の邪魔をしますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 3. 他人におだやかですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 3. 乱暴ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 4. 他人に同情的ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 4. 同情的ではないですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 5. 秩序をまもりますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 5. 混乱を起しますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 6. 他の子供を指導しますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 6. 他の子供についていきますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 7. 自分の権利を主張しませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 7. 主張しますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 8. 突飛な行動をしませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 8. 突飛な行動をしますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 9. 威張りませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 9. 威張りますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 10. 毎日の仕事に協力しますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 10. 協力しませんか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 11. ひどい話好きでもないし、だまりやでもないですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 11. ひどく話好きかまたはだまりやですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 12. 遠慮深いですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 12. 無遠慮ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 13. 他人の注意をひこうとしませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 13. 他人の注意をひこうとしますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 14. 他人にへつらいませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 14. 他人にへつらいますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 15. 従順的ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 15. 従順的ではないですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 16. 陰日向がありませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 16. 陰日向がありますか。..... <input type="checkbox"/> |

人格的方面

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 17. 一人で何でもやろうとしますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 17. 人に頼りがちですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 18. ひけめを感じていませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 18. ひけめを感じていますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 19. 精力的ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 19. ぼんやりしていますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 20. 仕事は早いですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 20. 仕事はおそいですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 21. 一つ事にさっぱりしていますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 21. しつこいですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 22. 注意深いですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 22. 不注意ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 23. 一つ事を一生懸命しますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 23. 気がちりやすいですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 24. 物事をききたがりますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 24. 無関心ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 25. 構成的ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 25. 破壊的ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 26. 遊戯において独創的ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 26. 独創的ではないですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 27. 空想的ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 27. 空想的ではないですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 28. 仕事に熱心ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 28. あきっぱいですか。..... <input type="checkbox"/> |

情緒的方面

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 29. 朗らかですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 29. 憂鬱ですか。..... <input type="checkbox"/> |
|--|---|

牛島：親子関係検査の作製

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 30. 気分はいつもおだやかですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 30. 気分が变りやすいですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 31. 自発的ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 31. 消極的ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 32. 強情ではないですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 32. 強情ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 33. 神経質ではないですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 33. 神経質ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 34. 嘘をつきませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 34. 嘘をつきますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 35. 激しやすすくないですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 35. 激しやすすいですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 36. 涙をこらえますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 36. すぐ泣きますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 37. 勇敢ですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 37. 臆病ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 38. 人にみられてもてられませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 38. 人にみられるとてれますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 39. よく物事を考えてしますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 39. 衝動的ですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 40. かんしゃくを起しませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 40. かんしゃくを起しますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 41. すねませんか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 41. すねますか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 42. 忍耐強いですか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 42. 忍耐強くないですか。..... <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 43. 人を許しますか。..... <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 43. 復讐しますか。..... <input type="checkbox"/> |

本幼児性格検査はブリッジスの原案に基づいて社会人格、情緒の三方面から採点される。各小問は左側が望ましい性質であり、右側が望ましくない性質となっている。配点は望ましいが3点、望ましくないは1点、中間のいずれともいえないのは2点とする。ただし11問だけは左側と真中が3点、右側が1点とする。

各方面別に合計点を出しそれを次ぎの表に基づいて5段階に評価する。なおこの標準は3歳から6歳までの男女共通に適用される。

		社会	人格	情緒	合計
標準段階	+ 2	45—	34—	42—	114—
	+ 1	40— 44	30— 33	37— 41	104—114
	0	35— 39	26— 29	30— 36	94—103
	- 1	30— 34	22— 25	25— 29	84— 93
	- 2	— 29	— 21	— 24	— 83

〔文 献〕

M. Zuckerman, B. B. Ribback, J. Monashkin and J. A. Norton, normative data and factor analysis on the Parental Attitude Research Instrument. J. Consult. Psychol. 1958

R. Nichols, a factor analysis of parental attitudes of fathers. Child Development 1962

A. Roe and M. Siegelman, a parent-child relation questionnaire. Child Develop. 1963

シュEFFァー、ベル、品川不二郎訳：両親の態度測定法の発達

品川不二郎、品川孝子著：田研式親子関係診断テスト、田中教育研究所

牛島義友、家族関係の心理、第七章第一節 金子書房 1955

牛島義友、家庭関係とパーソナリティ、児童心理学ハンドブック、金子書房 1959

R. Sears, E. E. Maccoby and H. Levin, Patterns of Child Rearing 1957

J. C. Glidewell, Parental Attitudes and Child Behavior 1961

K. M. B. Bridges, Social and emotional development of the preschool child 1931